

目次

発刊の辞

伍 鹏程 (贵州师范大学校长)	3
宮地 尚 (学校法人福山大学理事長)	4
牟田 泰三 (福山大学学長)	4
小丸 法之 (渋谷育英会理事長・福山通運会長)	5

論考

扶桑夜话	余 怀彦 (贵州师范大学历史与政治学院教授)	9
后现代主义视角下民族传统体育文化形态比较与启示	卢 塞军 (贵州师范大学体育学院教授)	16
作文力の向上について	刘 齐文 (贵州师范大学外国语学院副教授)	22
FLA 影响下的教授法在日本语教育中的应用	潘 琳静 (贵州师范大学外国语学院助教)	29
试论朝核试验与日本战略步伐	张 英杰 (贵州师范大学日本史方向硕士研究生)	33
杜甫「屏跡」詩について	森野繁夫 (福山大学孔子学院院长)	38
小論陸機之書	佐藤利行 (広島大学大学院文学研究科教授・福山大学北京 教育研究センター顧問) 郭 穎 (広島大学大学院文学研究科博士課程)	45
日本における近代企業会計制度の歩み	許 霽 (福山大学経済学部講師・福山大学北京教育研究 センター貴州支部長)	50
中国六朝の“山中遇女仙故事” 和日本の浦島传说	赵 建红 (福山大学留学生センター講師)	69
笔译的“体”和“用”	李 均洋 (首都师范大学诗歌研究中心教授)	79
“永明体”辨	冷 纪平 (首都师范大学诗歌研究中心博士研究生)	84
現代日语感叹句分类初探	闫 金钟 (天津科技大学外国语学院讲师)	87
六朝志怪説話の非情性	先坊幸子 (安田女子大学文学部非常勤講師)	93

发刊词

贵州师范大学校长 伍鹏程

中日两国堪称近邻，用一衣带水四字来形容，实不为过。

文化是联系两国关系的纽带。两国文化交流渊源流长。在绵延两千多年的交往中，中华民族和日本民族相互学习、相互借鉴，促进了各自的发展和进步。自秦汉以来，中日两国的交往就有了文字记载，《史记》、《汉书》、《后汉书》、《三国志》等史籍为我们留下了弥足珍贵的史料。遣唐使把这种文化交流推向了高潮，鉴真东渡以浓墨重彩书写了壮丽的篇章。这些志士先贤为发展中日两国人民的友谊献出了自己的一切。河野洋平议长在中国文化节开幕式上说，“日本传统文化中散发着中国文化的浓郁鲜香，表明日中之间有着割舍不断的因缘。”温总理在日本国会演讲，对中日友好文化交流作了高度概括：“明治维新以后，日本社会快速发展，中国大批志士仁人来到日本，学习近代科学技术和民主进步思想，探求振兴中华之路，促进了中国的发展和进步。中国民主革命的先行者孙中山先生开展的革命活动，曾得到许多日本友人的支持与帮助。周恩来、鲁迅、郭沫若先生先后在日本学习、生活，同日本人民结下深厚的情谊。中日两国友好交往历时之久、规模之大、影响之深，在世界文明发展史上是罕见的，这是我们共同有的历史传统和文明财富，值得倍加珍惜，代代相传，发扬光大！”

日本学者治学，多重实闻亲见，不尚空谈，长于文本细读，善于深究。他们在一些领域，如中国宗教文化、中外关系史及中国戏曲小说等方面的研究成果，曾给中国学者以启迪。

中国的日本学研究始于清末，已历百年。唯近三十年来，日本学研究有了空前的发展，举办了不少的日本学国际研讨会，出版了不少日本学的学术刊物，并有大量的学术专著问世。在此背景下，我校在积累了十多年日语（二外）教学经验的基础上，于2004年3月在外国语学院设置了日语学科，从事日语教育。经过几年的发展，形成了完善的学术梯队。2006年10月，在校、院有关领导的倾力支持及日语教研组全体教师共同努力，承蒙首都师范大学外国语学院博士生导师、日语系李均洋教授，日本广岛大学校长特别助理、北京研究中心主任、文学博士、佐藤利行教授，日本福山大学副校长、经济学博士、吉原龙介教授的热心关注下，我校与日本福山大学结成姊妹学校，并达成互派留学生的交流协议，同时在我校成立日本学研究中心。

谋求沟通是现代学术发展的趋势。通过沟通，推进学术交流，化解误解误读，减少文化摩擦，强化学者对话，加强中日国民间的理解，构筑互信共生的中日关系——这正是贵州师范大学与日本福山大学合办《日本学研究》这一学术刊物的宗旨。

我衷心希望贵州省唯一的《日本学研究》学术期刊健康发展，茁壮成长，枝繁叶茂，成为我省乃至西南地区日本学研究的重要基地。

衷心祝贺《日本学研究》创刊发行！

発刊の辞

学校法人福山大学理事長／福山大学孔子学院理事長 宮地 尚

このたび刊行される『日本学研究』は、同センターの研究員・客員研究員を中心に、福山大学・貴州師範大学をはじめとする多くの研究者らの研究成果を公開する研究論文集である。斯学の長老から中堅研究者、若手研究者らの優れた論文が寄せられた。まずはこの場をお借りして玉稿をお寄せいただいた先生方に心よりお礼を申し上げたい。

研究センターの論文集は、いわば研究センターの顔である。そこに掲載される論文を見れば自ずとセンターの研究レベルが知れる。「日本学研究センター」が貴州のみならず中国全土においての日本学研究のメッカとなり、更には日中の研究者による日本学研究の拠点とならんことを願っている。理事長としてそのための支援は惜しまないつもりである。

研究が深化発展し、それが教育に活用される。またその成果が社会貢献に繋がっていく。これこそがまさに大学として本来あるべき姿である。日本学研究といっても、その研究対象は非常に幅広いものがある。言語・文学はもとより、文化・経済・地理といった人間の生活に関わる全ての事象が研究領域となろう。それぞれの分野においての研究が進み、それが福山大学・貴州師範大学の発展に繋がって行く、そのことを希望して『日本学研究』発刊にあたっての言葉としたい。

福山大学学長 牟田泰三

日本の文化は、日本という島国で生まれた独自のものです。しかしながら、その発展の過程では、3000年以上の歴史を持つ中国の偉大な文化に大きな影響を受けながら進化を遂げてきたのも事実です。最近百数十年の間こそ、日本の文化は欧米の影響を強く受けて西欧化してしまいましたが、日本文化の根底には未だ中国の影響が根強く息づいています。

日本の文字は、中国の漢字を輸入することによって初めて成立しましたが、それは、日本の言葉に適した形に変化し、仮名交じり文が生み出されました。茶の湯や生け花なども、もとはと言えば中国の禅寺で行われていたものが、日本に輸入されて更に発展したものです。筆を使った書道は、今でも中国の書法に大きな影響を受けながら発展しています。

このような日本の姿を、中国の側に立って研究することは、大変意味のあることだと思われれます。特に、中国と日本が未来に向かって緊密な協力体制を整えようとしている今日、知的文化の観点から日中共同研究の芽が育つことは、極めて重要であると思います。

このたび、貴州師範大学と福山大学の研究者の協力によって、「日本学研究」が創刊されたことは、まことに時宜を得たものであり、私の喜びとするところでございます。

『日本学研究』創刊号刊行にあたって

渋谷育英会理事長／福山通運会長 小丸法之

2006年10月、貴州師範大学外国語学院内に、貴州師範大学と福山大学との共同研究機関である「日本学研究センター」が設置された。

貴州師範大学外国語学院には、その2年前に日本語学科が設置され、学部1年生2年生、合わせて100名余りが日本語を学んでいた。新設の学科ということもあって、日本語関係の研究書が少なく、教師たちが教育研究に窮しているということであった。そこで渋谷育英会から日本語・日本文化・日本事情に関する書籍を寄贈することになった。貴州師範大学側では、前述の「日本学研究センター」内に「小丸文庫」を設置して下さり、センター開設の記念式典に小生も招待され、「小丸文庫」寄贈式も挙行された。

中国西南部に位置する貴州省は、非常に風光明媚なところであり、その観光資源は将来の地域振興の鍵となる。諸外国からの観光客も年々増加し、日本からの旅行者もますます増えることであろう。貴州師範大学で日本語を学ぶ学生たちも、多くはガイド・通訳として地元の産業振興の担い手となる。書籍の寄贈という形で、貴州省の産業振興のお手伝いができることを甚だ光榮に思っている。

今回、刊行される『日本学研究』には日中の研究者の優れた研究業績が発表されている。今後この研究誌が号を重ね、貴州師範大学・福山大学はもちろんのこと、日中の日本学研究の発展に寄与されんことを心より願っている。